

第10回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成23年2月7日(月)

午後1時30分から

場所 職員会館 大会議室

【出席者】

	氏名
委員 (6名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、野崎光生委員、渡辺晃司委員、樋口敦子委員 (欠席:高木直樹委員、石川利江委員)
事務局 (7名)	高見沢都市整備部長 横山まちづくり推進課長、 松橋中心市街地活性化対策室長、瀧澤係長、長谷川主査、 西島課長、坂口係長(商工振興課)

1. 開会

2. 都市整備部長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議事

(1) 基本計画の変更について

表参道長野五輪メモリアルパーク整備事業について

< 資料1, 2 > (説明者: 事務局)

< 資料3 - 1 > (説明者: 商工振興課)

(委員)

- ・ステージの解体はいつ行われるのか。
また、その部分はどうなるのか。
- ・事業費の中には土地の取得費も入っているのか。
- ・中央通りで進行中の歩行者優先道路化事業との、整合性は取れているのか。

(事務局)

- ・ステージはH23年度中には解体したい。
- ・セントラルスクエアの後利用については、H16年に別の委員会を組織して検討してもらった。それによると緑豊かな公園、イベント広場として使えるスペースを主な機能としたものを提案されているが、近年まわりを取り巻く事情が変わってきている。改めて、その方向で進めるべきか検討する事なるだろう。市民の意見を聞いたり、審議会を開いたりしながら、検討したい。
- ・事業費の中に土地の取得費は入っていない。公園の整備費だけである。
- ・歩行者優先道路化事業とすり合わせながら、計画している。地元の皆さんにも説明しながら進めていく予定である。

まちなか居住について

<資料3 - 2> (説明者：事務局)

(委員)

- ・この事業で居住体験できるのは、一定期間だけなのか。引っ越してくることはできないのか。
- ・住んでも良いし、商売しても良いという事か。
- ・金額はH23年度、1年間の金額か。
- ・善光寺界限というのは線引きするのか。
- ・電気代などはどうなるのか。
- ・民間団体に事業委託するが、市としてはHPを開設する仕事以外に何か係わる事があるのか。まちづくり推進課が中心になって一緒にやっていくという事か。
- ・ここにある民間団体は不動産が専門ではないが、増える可能性はあるのか。専門の方が入ると事業に広がりが出てくるのではないか。ビジネスと行政の垣根という難しい部分があるかもしれないが、そこまで踏み込まないと、いつまでも小さな世界で終わってしまう。
- ・資金をもっと出して、買い物はどこへいったなどの体験の資料、データのようなものを残さないと何のためにやるのか不透明。

(事務局)

- ・一軒家を借り上げて、寝具やテレビ等を用意し、一週間、十日間という期間、住んでもらう事を考えている。今回は居住を中心に検討している。
- ・事業費はH23年度の1年間の金額。実費相当の利用料をもらおうと考えている。
- ・役割分担は必要だと思っている。連携する民間団体は、これだけと決めてはいない。いろんな分野の方の協力が必要と考えている。
- ・アンケート等、情報収集する予定。

(委員)

- ・中心市街地に住んでいるが、出て行きたいと思っている人はいるのか。住みたくない理由に、大気汚染などがあがっているが、これは、外に住んでいる人の意見であって、現在、中心市街地に住んでいる人の意見というのはいかがか。
- ・第二弾、あるいは別のエリアでやっていかななくてはいけない。市の施策としては、これだけではいけない。これをスタートとしてエリアに一つずつできる位に増やしてネットワーク化ができれば理想的だと思う。

(事務局)

- ・流出させないための手段も必要である。
- 「広い庭付きの戸建への憧れ」とあるが、これなどは郊外へ出て行く理由の一つと思われる。
- ・関連団体へのノウハウの伝授も行っていきたい。中心市街地の中にもいろいろなゾーンがあるので、その場所、その場所にあったやり方がある。その辺りは、これから模索していく。

(委員)

- ・既存ストックを活用したという意味では、良いのだが、まちなか居住体験ということでは、もう少し増やさないと・・・。
- ・この事業をスタートさせるのは良いと思う。が、これで「長野市はやっている」という事にしてしまうと、実際の目的としている居住人口の増加には繋がらない。ここだけに留まらないで欲しい。

- ・フォローアップの数字として「あと1,037人」とあるが、こういった事をやっても数字的には遠い。マンション建築も再開されているところがある。中心市街地として定められた一歩外に、価格の安い、買いやすいマンションが沢山できている。そこで増えた人数は、まちなか居住の居住人口としては寄与しなくても、商業の活性化など、まちなかの活性化に寄与している部分があると思う。二次的なデータとして、外側の居住者の数値などもまとめてみれば、大きな影響力のある数値として捉える事ができる。
- ・柳町などは中心市街地ではないが、イトーヨーカドーなどは近い。エリア内のマンションだけを捉えるのではなく、第二次、第三次商圏のような考え方で外側のマンションの状況などを評価の中に入れて良いのではないかと。
- ・この事業に期待している。長野市内の人を中心部に住ませようというイメージが強いが、もっと広い目で見てほしいし、継続的に行って欲しい。2年程前に地方への移住のニーズを全国的に調査したものがある。首都圏で調査すると、北海道と長野と沖縄がベスト3に入っている。長野県内で熱心な所は、松本と飯山。実際に移り住んだ人に聞いてみると、結構、中心部に住みたいという人がいる。首都圏の込み合ったところから、地方に住みたいが、いきなり山の中では不便なので、まちなかが良いという事。実際に北海道から松本に移住した方は、高齢だったので、まちなかのマンションが住みやすいとの事。飯山の方は、職場に近いという事でまちなかの一軒家を選んだ。借家に住んでいる人が隣接した場所に一軒家を買うなどの流れがあった。長野市というと県外から見れば、漠然としたイメージがあるが、善光寺というブランドもあるので、その近くに住んでみませんかというイメージを絞ったりしてはどうか。本気で地方で住もうとしている人もいますので、その人達をターゲットに考えてみては。
- ・栃木などでも、市をあげて誘致して、良い結果を出しているということテレビなどでみた。県外の人に声をかけてみるのも良いだろう。前向きに推進してもらいたい。

計画の変更全体について

(委員)

- ・セントラルスクエアでは公衆トイレの要望はなかったのか。

(事務局)

- ・今回はポケットパークだけで、全体の整備についてはこれからである。全体的には将来、公園という議論がある。4,700 m²ある。公園的なものを整備するとなれば、トイレも必要となる。

(委員)

- ・基本計画もH23年度で5年間だが、環境もだいぶ変わってきている。その後の基本計画の見直しはあるのか。これからの5年間について聴きたい。5年間の反省も踏まえながら、環境も変わってきているので、一度見直しをして欲しい。

(事務局)

- ・国と協議している。国の方針は第2次計画ありきではなく、まずは、現存のものをやってみて、フォローアップを正確にして、その後という事だ。市としても大事なことなので、結果の考察も重要だと思う。
- ・事業によって、計画期間内には終わらないような事業も沢山ある。必要な事業があるので、それらについては引き続き進めていく。

(委員)

- ・南長野運動公園のあたりに水沢上庭区画整備事業がスタートしている。中心市街地の活性化をやりながら、郊外を更に開発して広げていこうとする事業であるが、いかがなものか。コンパクトシティといっているが矛盾しているのではないか。商業地域に変わったら大型店が出ないとも限らない。あの地域に商業集積を作ってよいものかどうか。長野市の配布物には商業集積を作って活気を出すなどあったが、疑問を感じている。優良農地を潰すだけではないのか。単に区画整理事業をやって、終わったら住宅も建たずに終わる可能性もある。

(事務局)

- ・都市計画マスタープランでコンパクトシティという考え方を打ち出している。コンパクトシティ＝一極集中ではない。広域的拠点があり、北長野や篠ノ井、松代周辺を地域の拠点として、更にその周辺に生活拠点を整備するという3段階のイメージになっている。
水沢上庭は生活拠点の充実を図るという位置付けである。日常品を販売する商業施設ができると、そこで一つの生活拠点となる。という事で総合計画と一致している。
- ・大型商業施設がでてくるのは問題なので、そういう事のないように用途でかなり厳しい規制を掛けている。制限つきで区画整理を進めている。
- ・今後の区画整理事業については、国のほうで農地転用ができない方針だ。ただ、駅の周辺でコンパクトにという事で新たな開発はあり得る（これは長野市だけでなく、全国で）。今の区画整理事業は、明らかに住宅が販売できたり、店舗が張り付いて区画整理事業が成り立たない限り認可が下りない。

(2)フォローアップについて

<資料4> (説明者:事務局)

(委員)

- ・質問なし

(3)その他

5. 事務連絡

6. 閉会